

岡山県感染症週報 2017年 第28週 (7月10日～7月16日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2017年 第28週(7/10～7/16)の感染症発生動向(届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第26週 5類感染症 梅毒 1名(20代 女)

第27週 5類感染症 アメーバ赤痢 1名(80代 男)

クロイツフェルト・ヤコブ病 1名(80代 女)

梅毒 1名(40代 女)

第28週 2類感染症 結核 6名(20代 男 3名、40代 女 1名、70代 男 1名、80代 男 1名)

3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 3名

(O103:50代 女 1名、O146:20代 女 1名、O157:10代 女 1名)

4類感染症 レジオネラ症 2名(40代 男 1名、70代 男 1名)

5類感染症 梅毒 5名(20代 男 1名、30代 男 2名、40代 男 1名、60代 男 1名)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点84、小児科定点54、眼科定点12、STD定点17、基幹定点5

○手足口病は、県全体で580名(定点あたり7.65→10.74人)の報告があり、前週より増加しました。

○ヘルパンギーナは、県全体で118名(定点あたり1.83→2.19人)の報告があり、前週より増加しました。

○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で76名(定点あたり1.11→1.41人)の報告があり、前週より増加しました。

【第29週 速報】

○腸管出血性大腸菌感染症 3名(O157:幼児 男 2名、30代 女 1名)の発生がありました。

(7月18日～19日)

○結核の集団感染がありました。2017年2月に岡山市で結核患者の発生があり、患者調査及び接触者健診を実施したところ、新たに発病者1名、感染者18名が確認され、結核集団感染と判明しました。(7月20日)

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第28週に3名の報告があり、2017年第28週まで(～7/16)の累計報告数は14名となりました。さらに第29週(7/18～7/19)にも3名の報告があり、患者の発生が続いています。岡山県では7月5日に「**腸管出血性大腸菌感染症注意報**」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。例年、7～8月は最も発生が多くなる時期です。この季節は細菌が増殖しやすい高温多湿な環境になっていますので、手洗いを徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで十分に火を通すなどの食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『**腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!**』をご覧ください。
2. **手足口病**は、県全体で580名(定点あたり7.65→10.74人)の報告があり、4週連続で増加しました。地域別では、美作地域(17.67人)、倉敷市(15.00人)、備前地域(11.30人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、備北地域を除く全ての地域で発生レベル3が継続しています。県内の発生状況など詳しくは、「**今週の注目感染症**」をご覧ください。
3. **ヘルパンギーナ**は、県全体で118名(定点あたり1.83→2.19人)の報告があり、前週より増加しました。地域別では、美作地域(4.33人)、真庭地域(3.00人)、倉敷市(2.55人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。全国の第27週(7/3～7/9)の発生状況は、定点あたり報告数が1.50人であり、9週連続で増加しました。都道府県別では、福岡県(5.41人)、佐賀県(5.17人)、大分県(5.14人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、西日本を中心に流行しています。この感染症は、例年7～8月頃が流行のピークとなりますので、ひきつづき県内の発生状況に注意するとともに、患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗いを励行するなど、感染予防に努めましょう。
4. **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で76名(定点あたり1.11→1.41人)の報告があり、前週より増加しました。過去10年間の同時期と比較して最も多くなっています。地域別では、岡山市(2.07人)、倉敷市(1.91人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、真庭地域を除く全ての地域で患者が報告されています。この感染症は、就学前から学童期の小児に多い感染症で、学校などで集団感染することもあります。患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗いを励行するなど、感染予防に努めましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↗	★	RSウイルス感染症	→	
咽頭結膜熱	↘	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	★★
感染性胃腸炎	↗	★★★★	水痘	↘	★
手足口病	↗	★★★★★	伝染性紅斑	↗	★
突発性発疹	↘	★★	百日咳	→	
ヘルパンギーナ	↗	★★	流行性耳下腺炎	↗	★
急性出血性結膜炎	→		流行性角結膜炎	↗	★
細菌性髄膜炎	→		無菌性髄膜炎	→	
マイコプラズマ肺炎	↗	★	クラミジア肺炎	→	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↘	* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移： ↑：大幅な増加 ↗：増加 →：ほぼ増減なし ↘：大幅な減少 ↙：減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

夏休みに海外へ渡航される方へ

夏休みに海外へ渡航される方に向けた感染症情報が、厚生労働省のホームページに掲載されています。

海外には、通常日本国内に存在しない感染症が多くあります。海外で感染症にかからないようにするには、出発前にあらかじめ渡航先の感染症に関する情報を入手しておくことが大切です。

旅行中の注意

- ・生水、氷、カットフルーツ、サラダやラクダの乳など、火が通っていないものを食べることは避けましょう。
- ・肌の露出を少なくする、虫よけ剤（ディートやイカリジン含有）を使用するなど、蚊やダニに刺されないように注意しましょう。
- ・動物には、むやみに近づいたり、触らないようにしましょう。
（狂犬病、中東呼吸器症候群（MERS）や鳥インフルエンザなどのウイルスをもっていることがあります。）
- ・外出後は、しっかり手洗いをしましょう。

帰国した後に

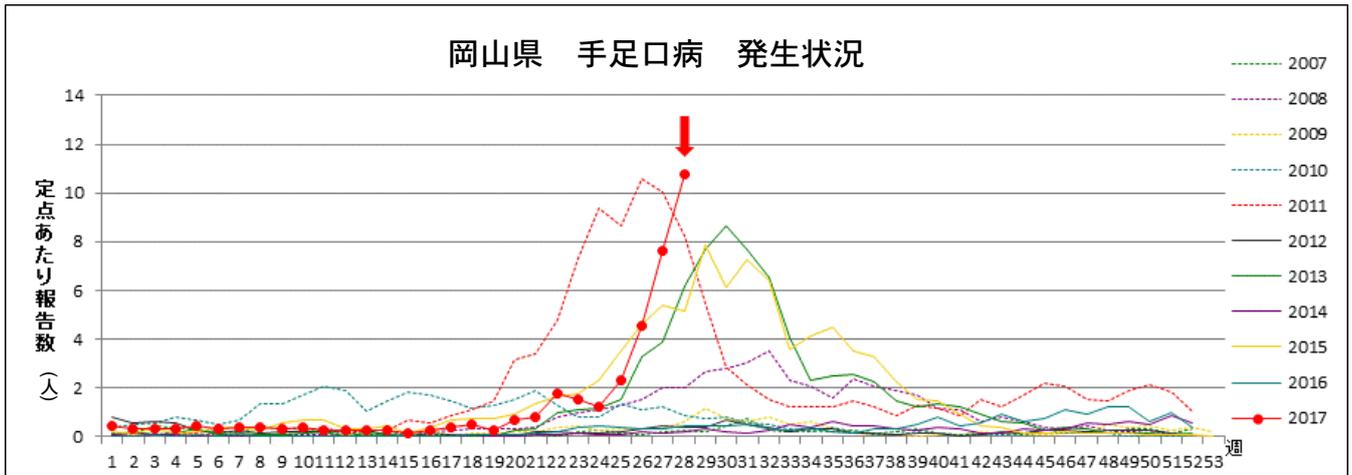
- ・帰国時に発熱や下痢などの症状がある方は、空港の検疫所に相談してください。
- ・帰国時に症状がなくても、その後体調が悪くなったときは、早めに医療機関を受診し、その際は必ず渡航先も伝えてください。

[夏休みに海外へ渡航される皆さまへ！（厚生労働省検疫所）](#)
[夏休み期間中における海外での感染症予防について（厚生労働省）](#)

今週の注目感染症

手足口病

【岡山県の発生状況】



手足口病は、県全体で580名（定点あたり7.65 → 10.74人）の報告があり、第25週（6/19～6/25）以降、急増しています。過去10年間の同時期と比較して最も多くなっています。地域別では、美作地域（17.67人）、倉敷市（15.00人）、備前地域（11.30人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、備北地域を除く全ての地域で、発生レベル3が継続しています。年齢別では、5歳以下の乳幼児が全体の94%を占めており、4～5歳の割合が前週より高くなっています。通常、6月頃から患者が増加し始め、7～8月頃に流行のピークとなる傾向があります。ひきつづき県内の発生状況に注意するとともに、患者との濃厚な接触を避け、手洗いや手指の消毒を励行するなど感染予防に努めましょう。

岡山県地区別 手足口病感染症マップ

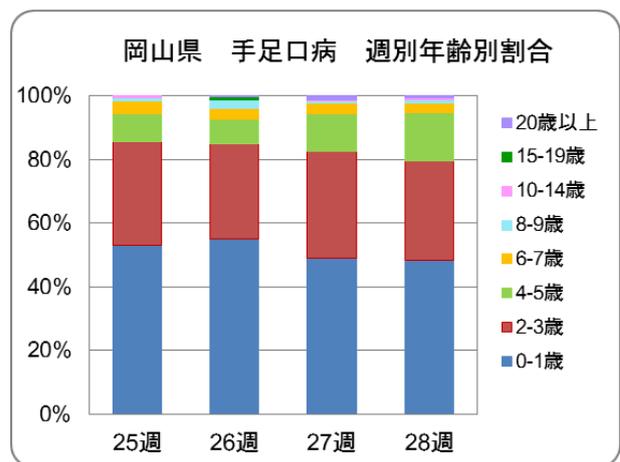
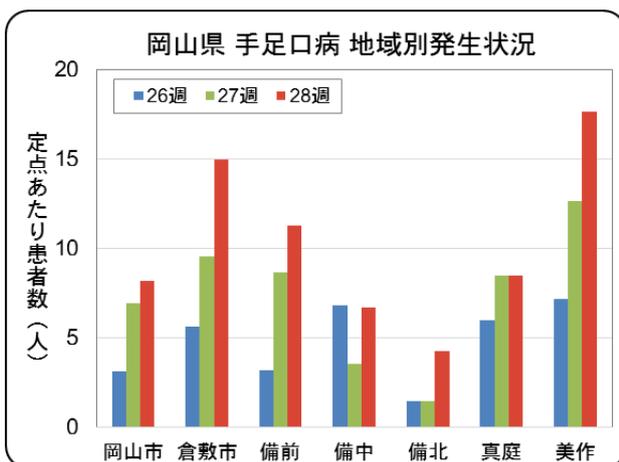
第26週 6/26～

第27週 7/3～

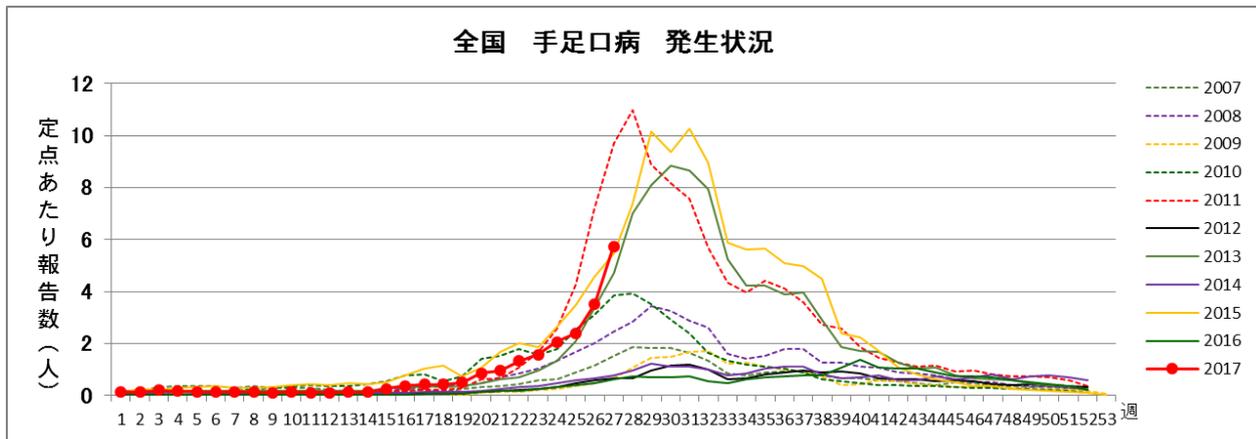
第28週 7/10～



発生レベル3
発生レベル1

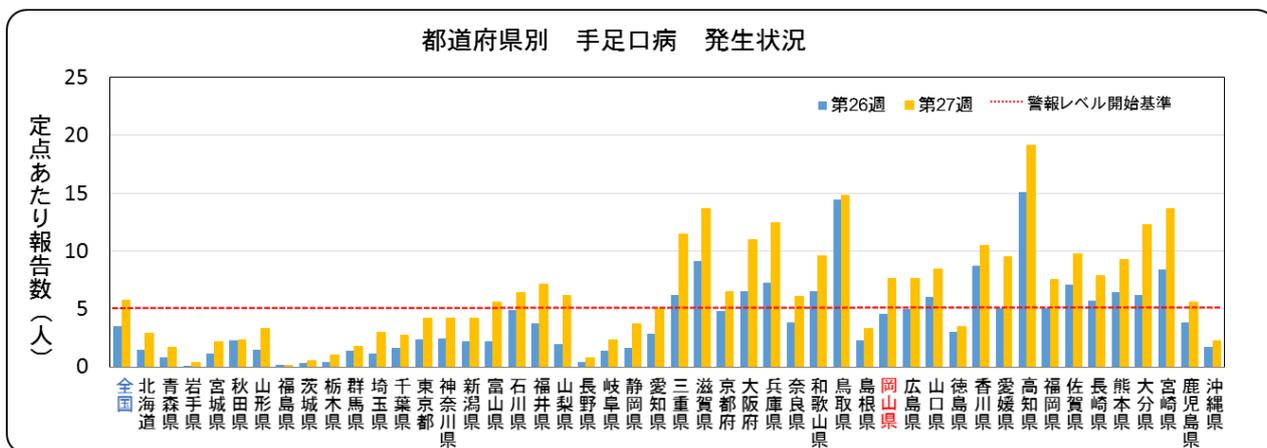


【全国の発生状況】



全国の第27週（7/3～7/9）の発生状況は、定点あたり報告数が5.74人であり、第15週（4/10～4/16）以降、増加がつづいています。都道府県別では、高知県（19.10人）、鳥取県（14.84人）、滋賀県（13.66人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。西日本を中心に流行しており、26府県で警報レベル（定点あたり報告数5.0人）を超えました。

2017年7月14日までに報告された全国の手足口病患者から検出されたウイルスは、コクサッキーウイルスA6型（55%）が最も多く、次いでコクサッキーウイルスA16型・エンテロウイルス71型（各6%）となっています。



[IDWR 速報データ 2017 年第 27 週（国立感染症研究所）](#)

[IDWR 2017 年第 23 号<注目すべき感染症> 手足口病\(国立感染症研究所\)](#)

【手足口病とは】

夏に乳幼児を中心に流行する急性ウイルス性感染症です。コクサッキーウイルス、エンテロウイルスなどが原因となります。感染している人の咳やくしゃみで飛び散るしぶきを浴びてウイルスを吸い込むことや、便の中に排泄されたウイルスが、手指などを介して口に入ることによって感染します。

【症 状】

3～5日の潜伏期間の後、軽度の発熱とともに、口の粘膜、手のひら、足の甲や裏に2～3mmの水疱性発しんが出現するのが特徴です。3～7日で水疱は消え、通常予後は良好ですが、まれに髄膜炎や脳炎などを起こすことがあります。特に、エンテロウイルス71型による手足口病は、中枢神経系の合併症など、重症化する割合が高いと言われています。

【治 療】

特別な治療法はありません。経過観察を含め、症状に応じた対症療法が行われます。口の中に発しんができて食事を取りにくい場合、柔らかい薄味の食事にするなどの工夫をし、こまめな水分補給を心がけましょう。また、おう吐する、頭を痛がる、発熱が2日以上続く、ぐったりとしているなどの症状がみられた場合は、すぐに医療機関を受診しましょう。

【予 防】

有効なワクチンはありません。患者との濃厚な接触を避け、手洗いや手指の消毒、適切に排泄物を処理するなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。症状が治まっても、2～4週間の長期間にわたり便の中にウイルスが排出されるため、手足口病にかかりやすい乳幼児が集団生活をしている保育園や幼稚園などでは、特に注意が必要です。

[手足口病とは（国立感染症研究所）](#)

[手足口病に関するQ&A（厚生労働省）](#)

保健所別報告患者数 2017年 28週(定点把握)

(2017/07/10~2017/07/16)

2017年7月20日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	7	0.08	-	-	2	0.13	4	0.27	-	-	-	-	-	-	1	0.10
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	7	0.13	3	0.21	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	76	1.41	29	2.07	21	1.91	12	1.20	5	0.71	1	0.25	-	-	8	1.33
感染性胃腸炎	410	7.59	144	10.29	81	7.36	91	9.10	20	2.86	24	6.00	17	8.50	33	5.50
水痘	11	0.20	4	0.29	5	0.45	1	0.10	-	-	-	-	1	0.50	-	-
手足口病	580	10.74	115	8.21	165	15.00	113	11.30	47	6.71	17	4.25	17	8.50	106	17.67
伝染性紅斑	11	0.20	-	-	-	-	11	1.10	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	30	0.56	9	0.64	11	1.00	7	0.70	1	0.14	-	-	-	-	2	0.33
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	118	2.19	34	2.43	28	2.55	12	1.20	11	1.57	1	0.25	6	3.00	26	4.33
流行性耳下腺炎	17	0.31	9	0.64	3	0.27	3	0.30	1	0.14	-	-	1	0.50	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	9	0.75	3	0.60	5	1.25	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2.00	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2017年 28週(発生レベル設定疾患)

(2017/07/10~2017/07/16)

2017年7月20日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	7	0.08	-	-	2	0.13	4	0.27	-	-	-	-	-	-	1	0.10
咽頭結膜熱	7	0.13	3	0.21	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	76	1.41	29	2.07	21	1.91	12	1.20	5	0.71	1	0.25	-	-	8	1.33
感染性胃腸炎	410	7.59	144	10.29	81	7.36	91	9.10	20	2.86	24	6.00	17	8.50	33	5.50
水痘	11	0.20	4	0.29	5	0.45	1	0.10	-	-	-	-	1	0.50	-	-
手足口病	580	10.74	115	8.21	165	15.00	113	11.30	47	6.71	17	4.25	17	8.50	106	17.67
伝染性紅斑	11	0.20	-	-	-	-	11	1.10	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	118	2.19	34	2.43	28	2.55	12	1.20	11	1.57	1	0.25	6	3.00	26	4.33
流行性耳下腺炎	17	0.31	9	0.64	3	0.27	3	0.30	1	0.14	-	-	1	0.50	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	9	0.75	3	0.60	5	1.25	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2017年 第28週 2017/07/10~2017/07/16)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	7	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1	-	1	3	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~	
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	7	-	3	2	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	76	-	6	8	10	12	13	13	6	2	1	2	1	2	
感染性胃腸炎	410	10	37	83	41	33	39	30	13	15	15	9	28	10	47
水痘	11	-	1	3	-	1	1	2	1	1	-	-	1	-	
手足口病	580	3	88	189	107	74	59	28	16	3	5	1	4	-	3
伝染性紅斑	11	-	1	1	4	1	-	2	-	1	1	-	-	-	
突発性発疹	30	1	17	9	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ	118	-	8	39	25	18	15	6	4	1	-	-	1	-	1
流行性耳下腺炎	17	-	-	-	1	3	2	2	3	2	3	-	-	1	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	9	-	-	1	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	1	3	-	-	1

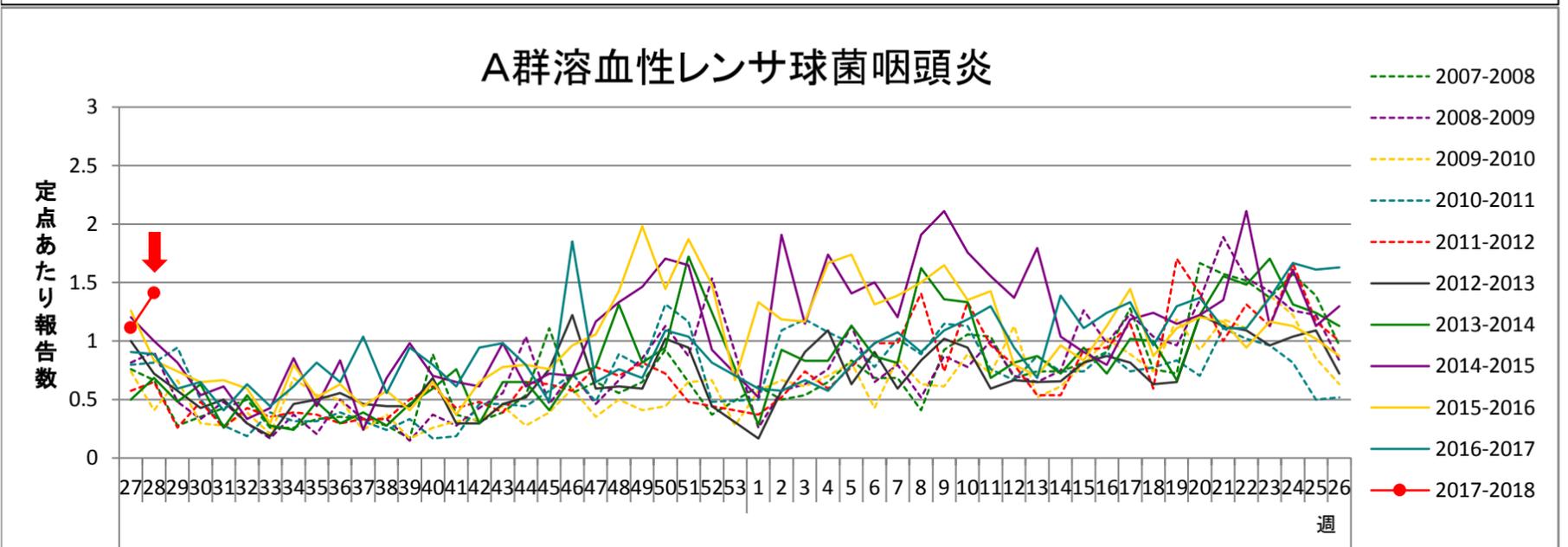
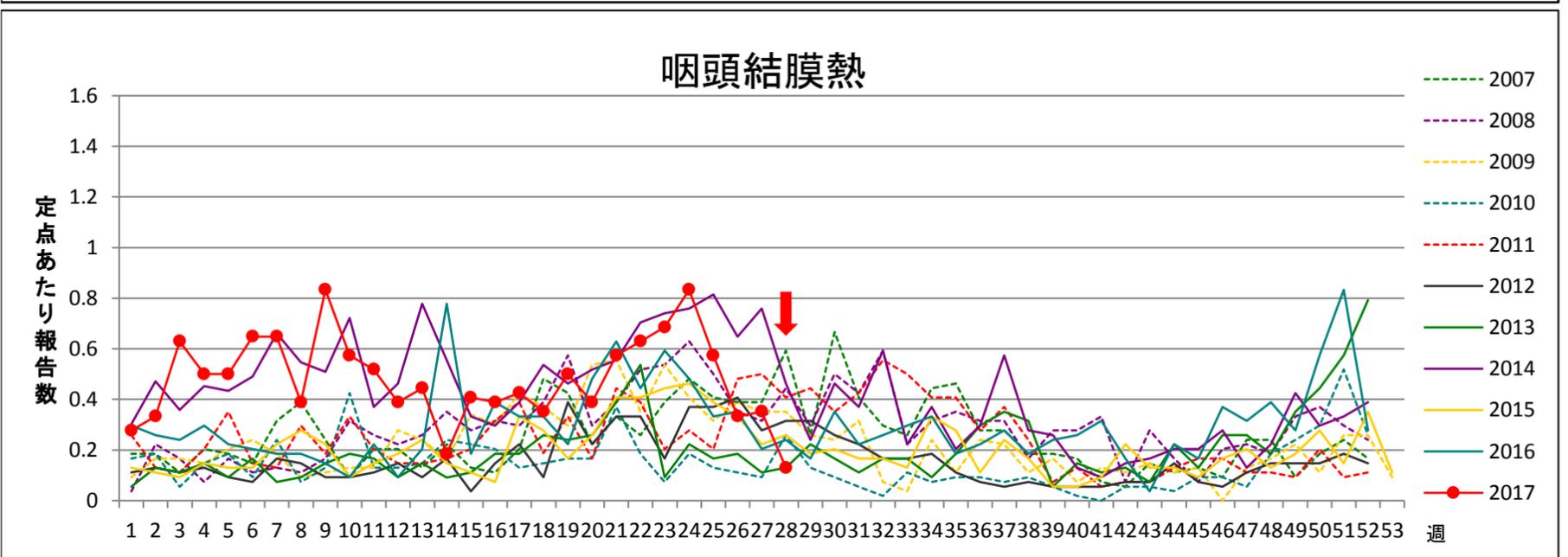
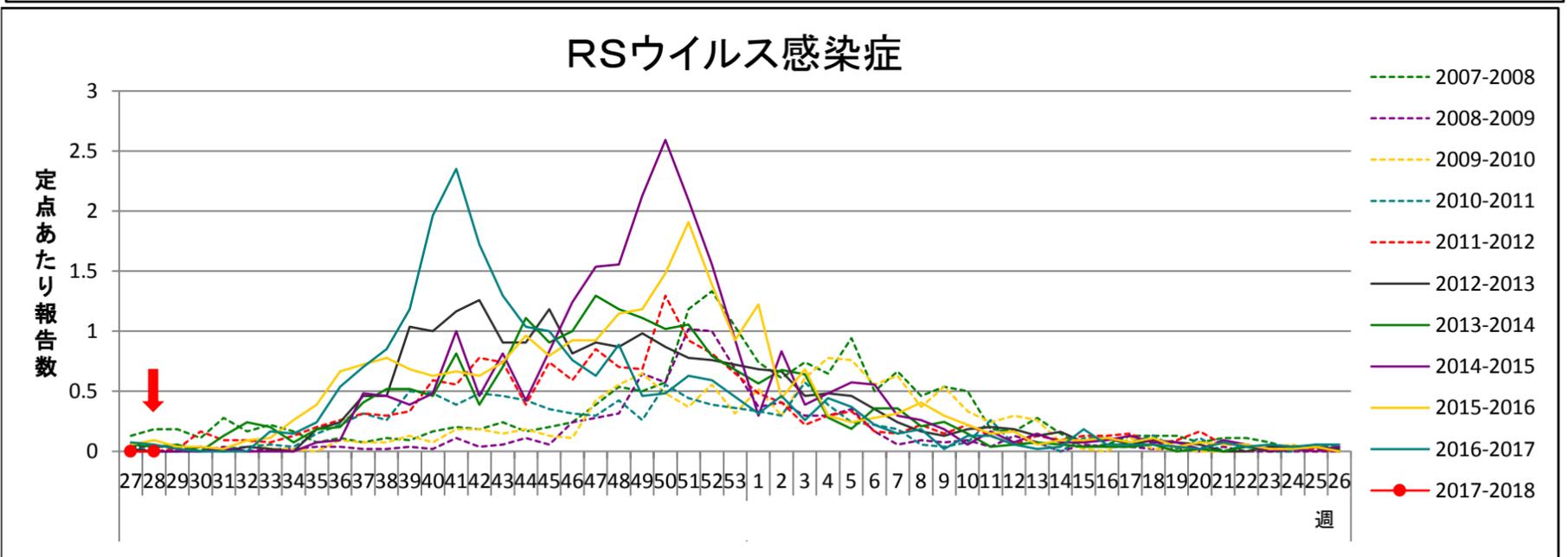
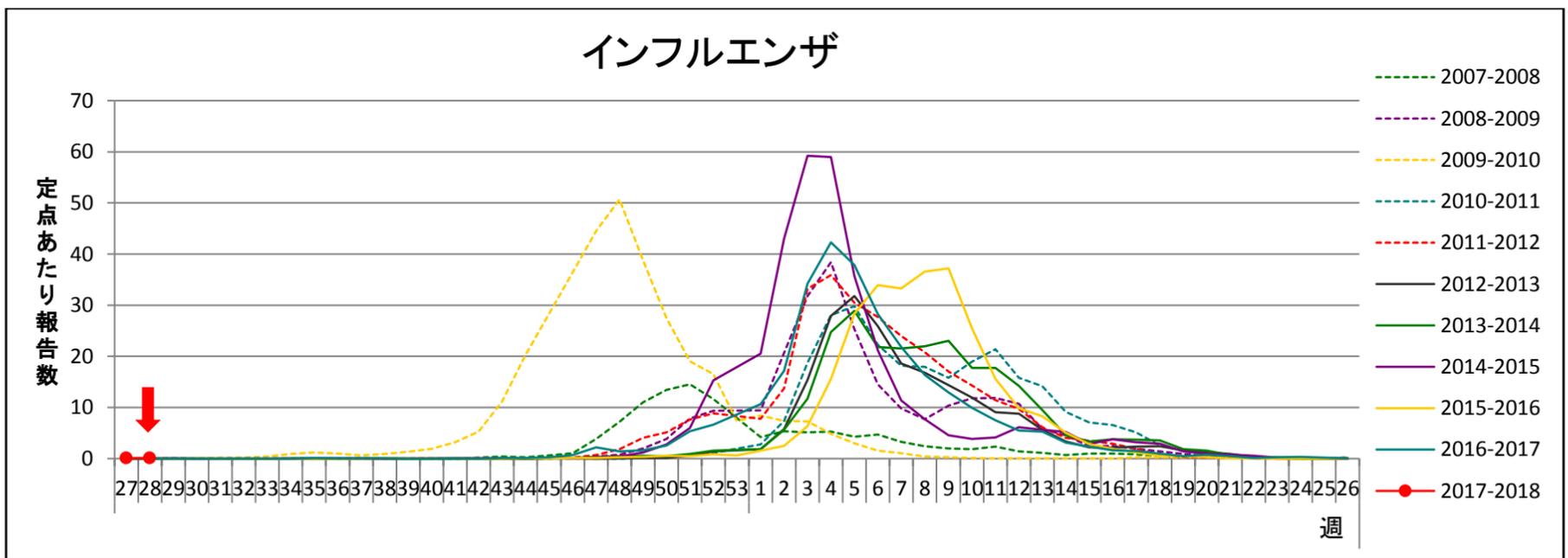
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

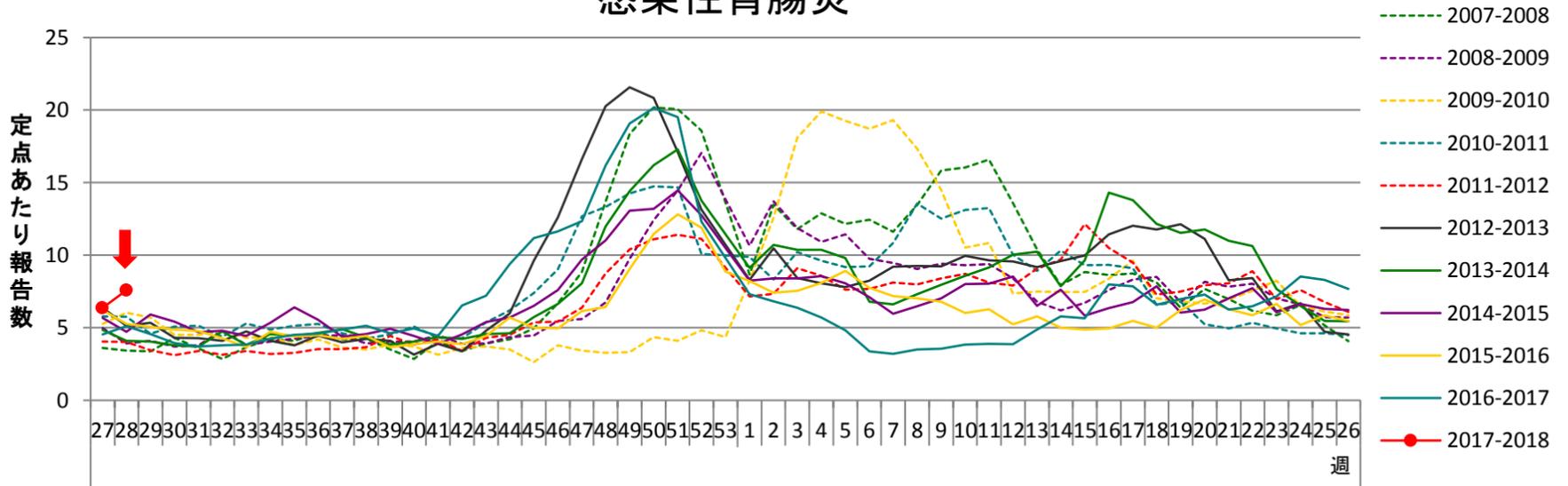
全数把握 感染症患者発生状況

2017年 28週

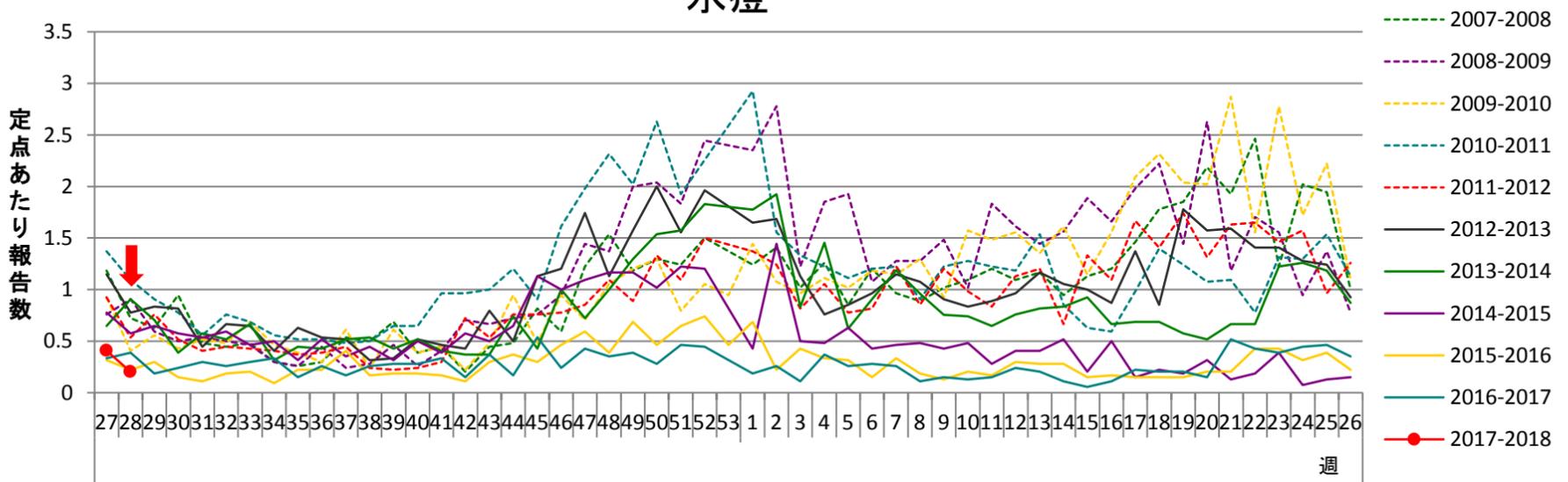
分類	疾病名	2017			疾病名	2016			疾病名	2017			2016		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年			
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	6	184	311	ジフテリア	-	-	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	1	-	腸管出血性大腸菌感染症	3	14	65	-	-	-
	腸チフス	-	1	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-	-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	1	3	-	-	-
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	1	-	-	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2	-	-	-
	デング熱	-	-	1	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	1	日本紅斑熱	-	1	4	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	2	12	26	-	-	-
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-	-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	15	18	ウイルス性肝炎	-	4	4	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	4	28	-	-	-
	急性脳炎	-	3	11	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	2	3	-	-	-
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	5	8	後天性免疫不全症候群	-	10	12	ジアルジア症	-	-	1	-	-	-
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	7	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	23	32	-	-	-
	水痘(入院例に限る。)	-	2	3	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	5	76	40	-	-	-
	播種性クリプトコックス症	-	-	2	破傷風	-	-	4	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	4	1	風しん	-	-	-	麻しん	-	-	-	-	-	-
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-



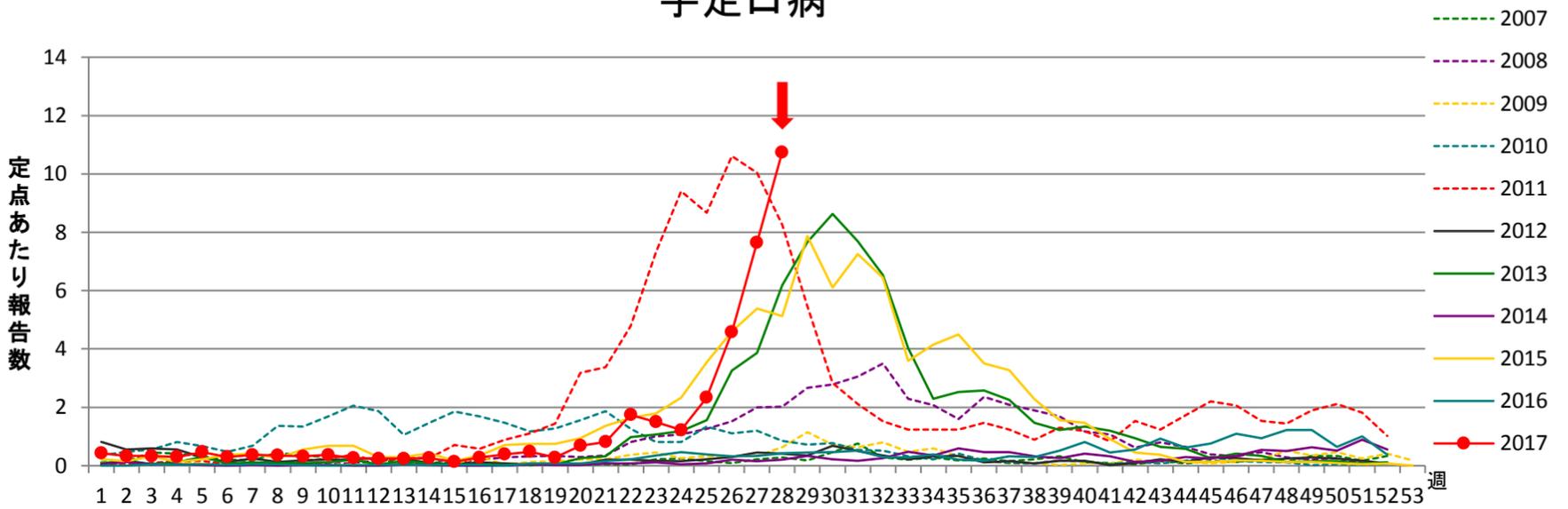
感染性胃腸炎



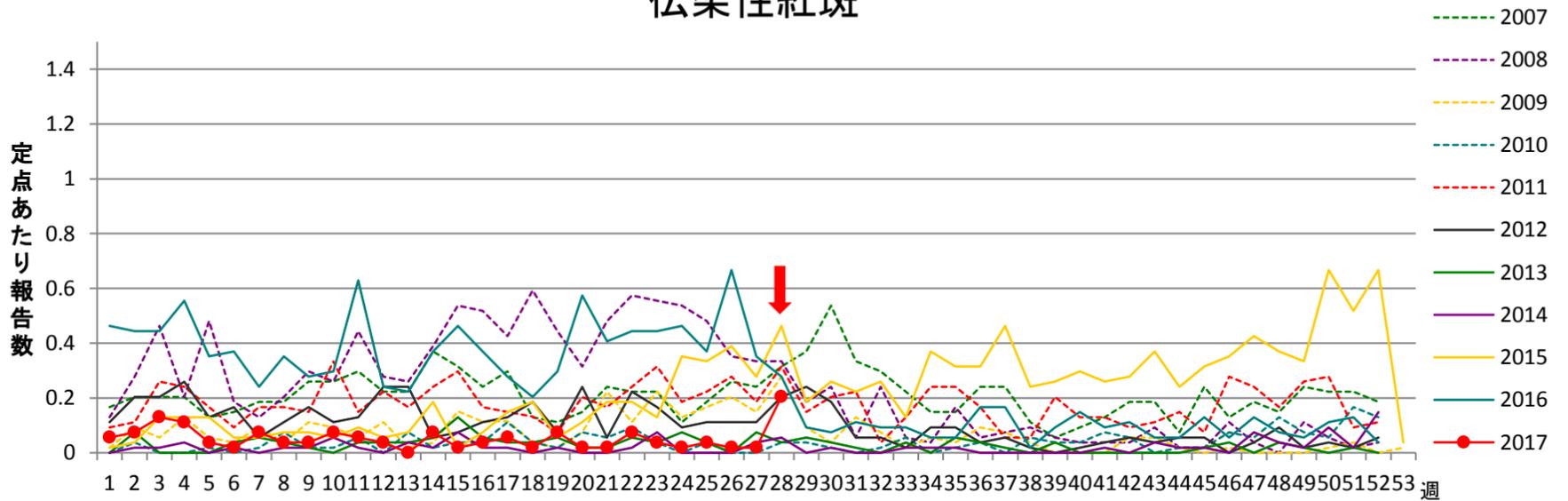
水痘



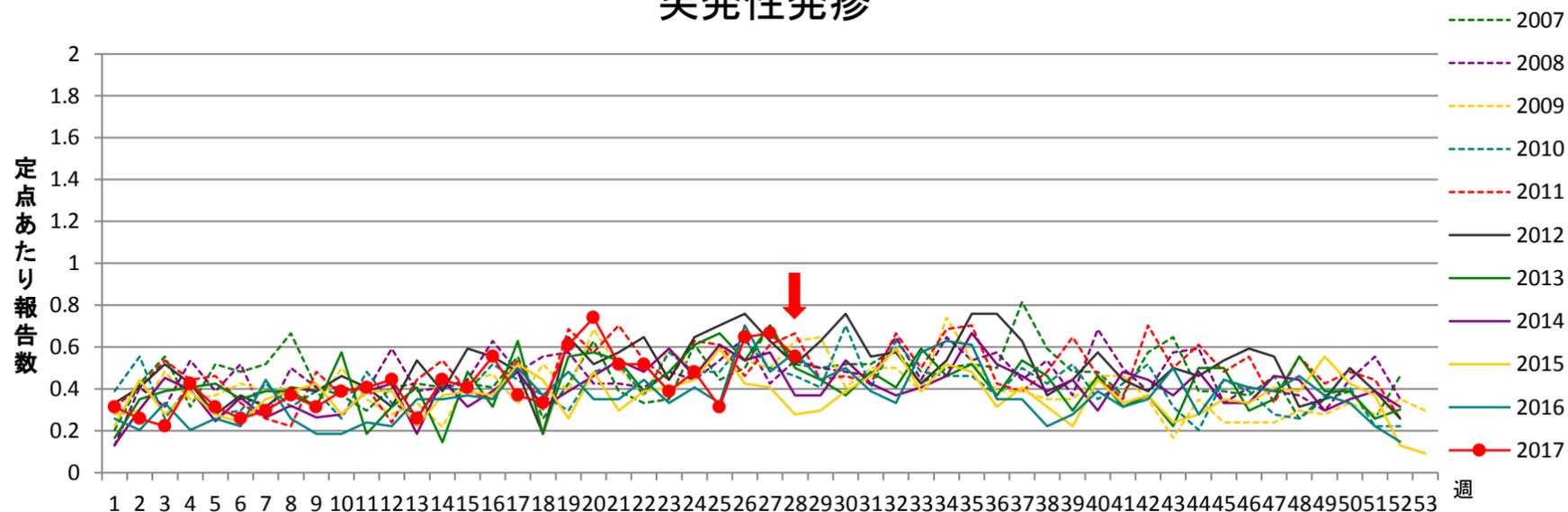
手足口病



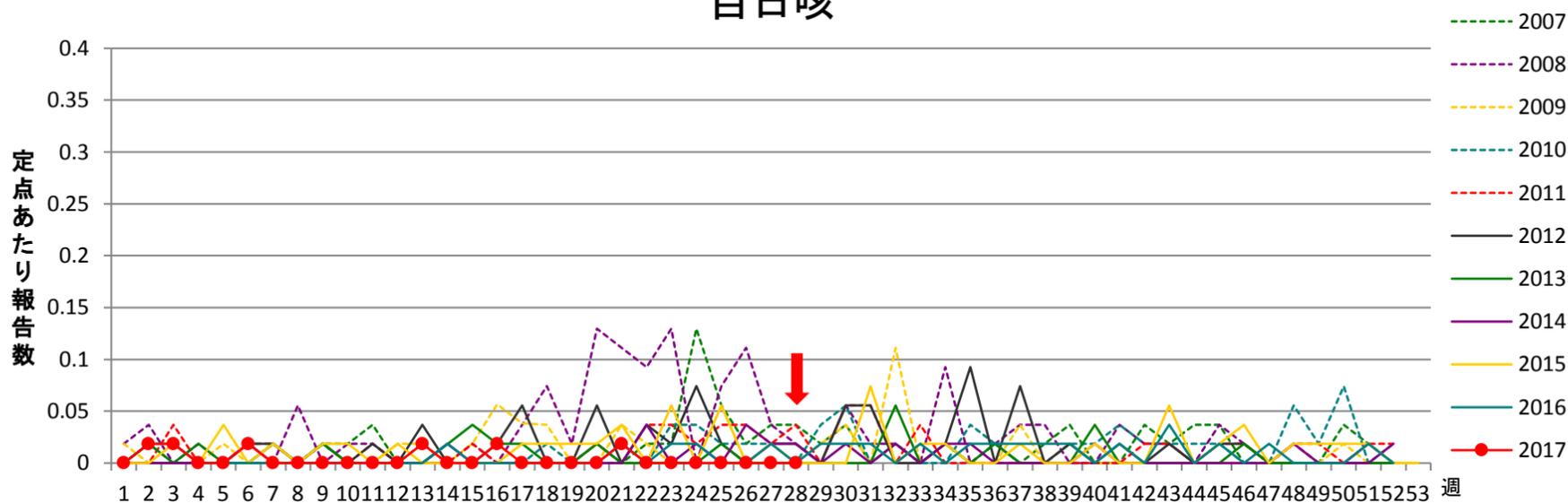
伝染性紅斑



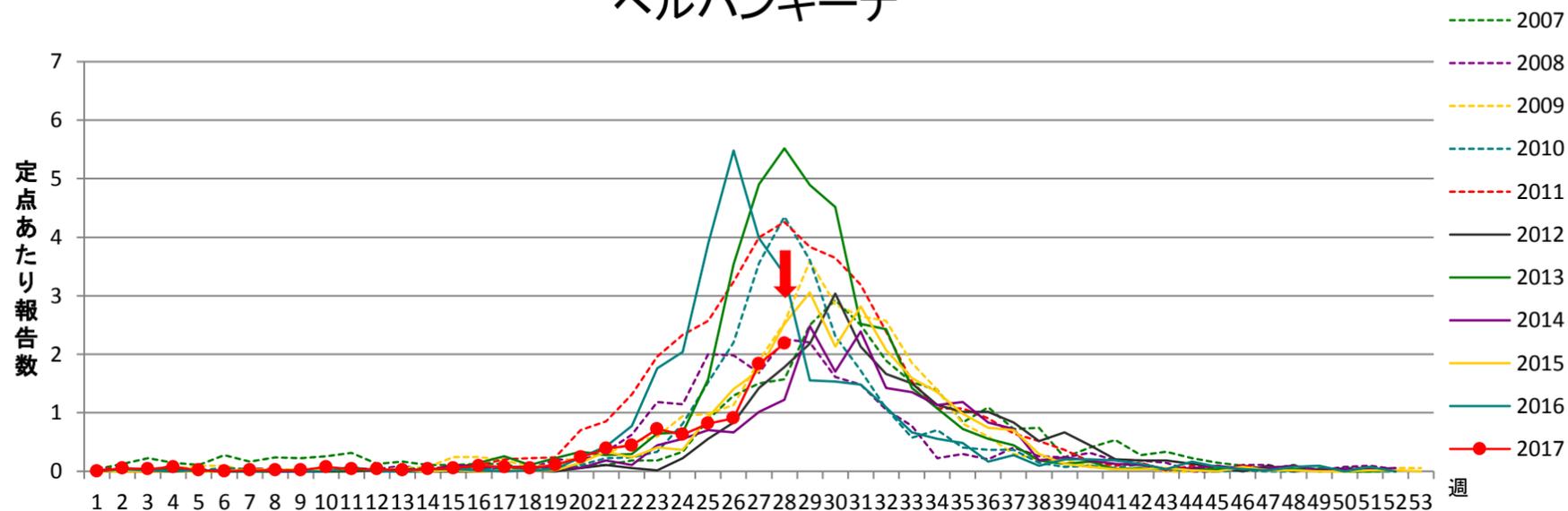
突発性発疹



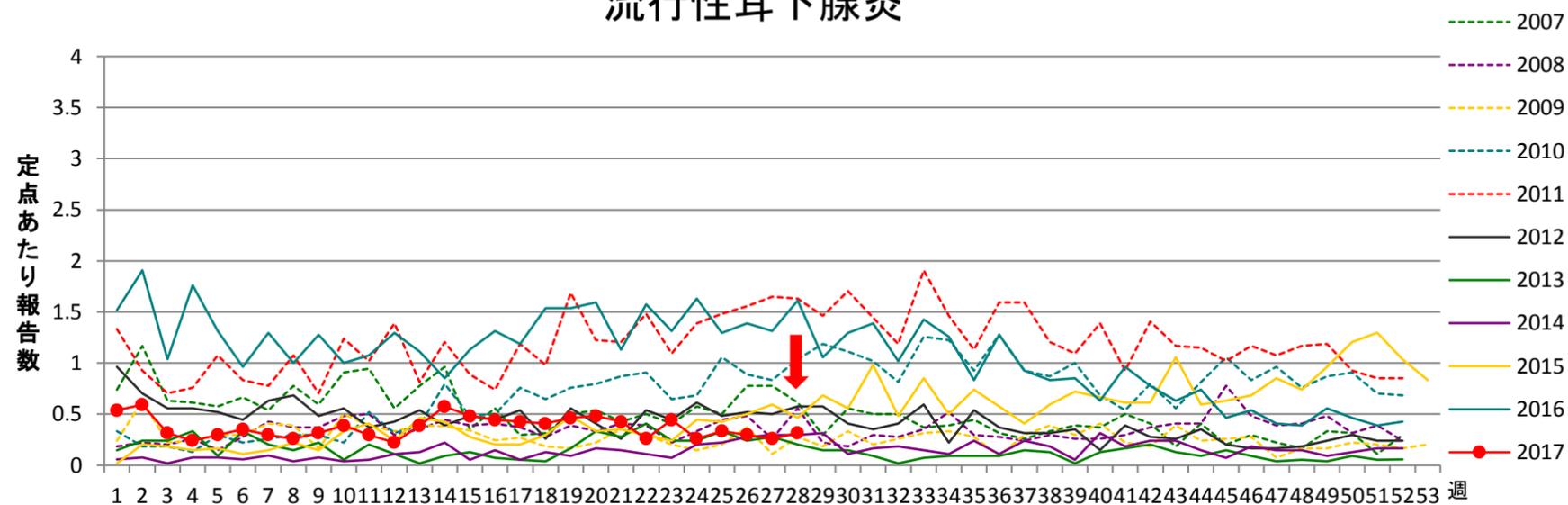
百日咳



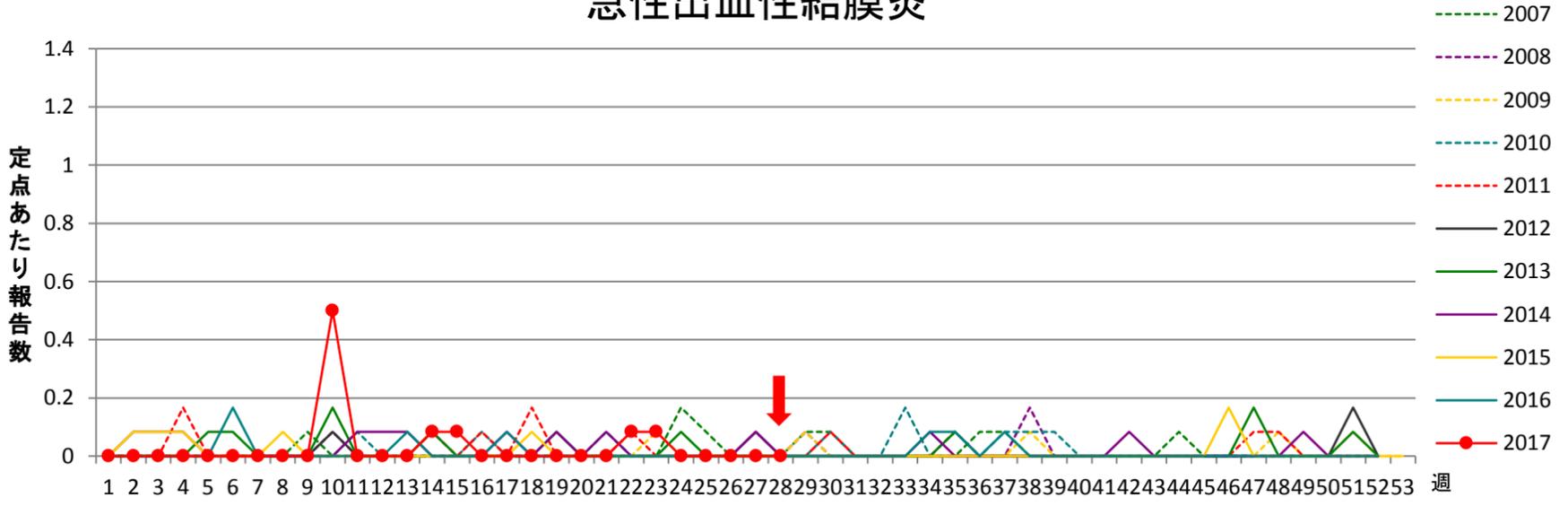
ヘルパンギーナ



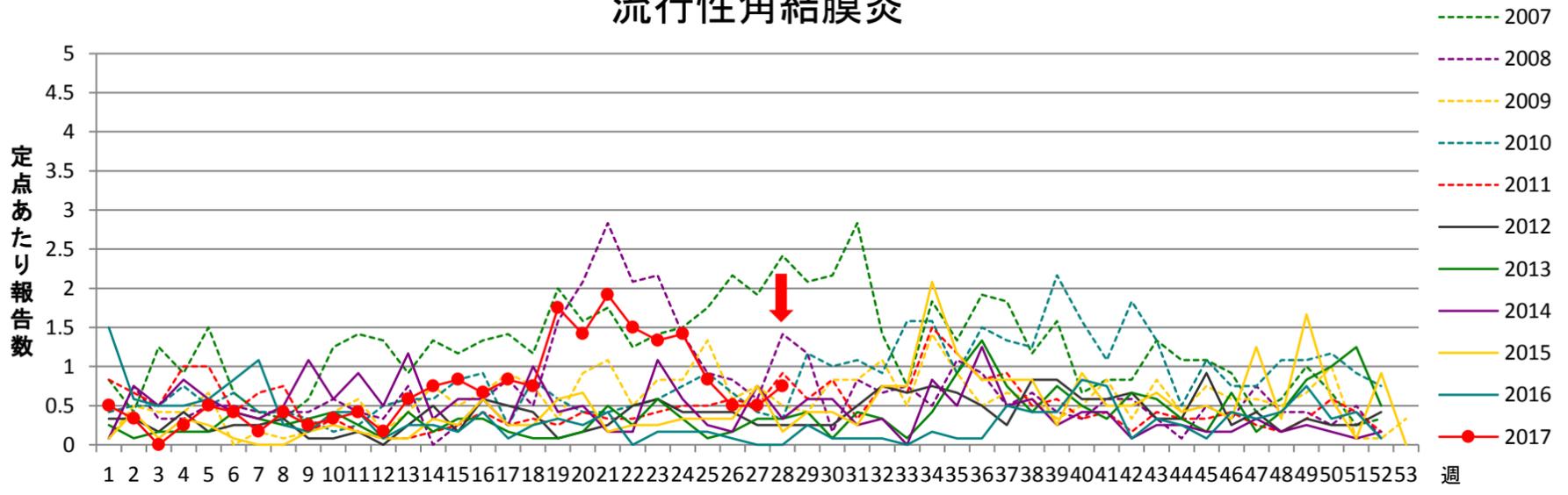
流行性耳下腺炎



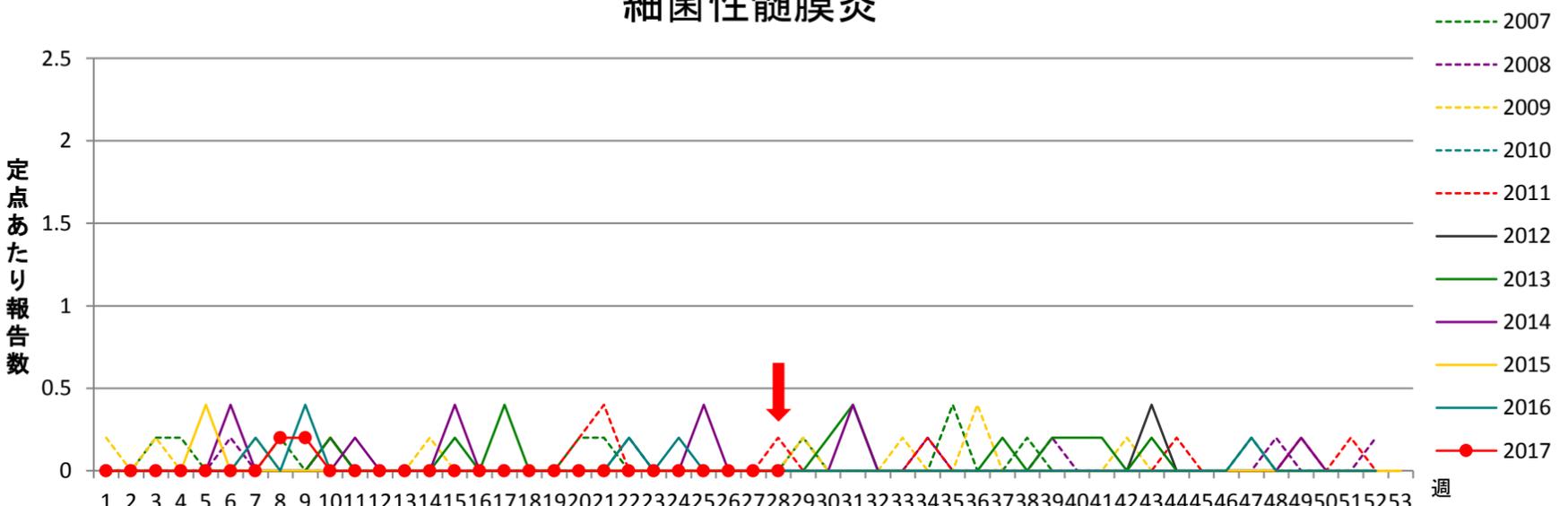
急性出血性結膜炎



流行性角結膜炎



細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎

